

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2018年
9月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 小南 晃

印刷所
文明堂印刷所

未知なる他者を友として

司祭 ポール・トルハースト



近頃、教会よりも家庭や学校の都合を優先したり、趣味などに時間を費やしたりして、人々が日曜礼拝に来なくなつたと不満を訴える声をよく聞きます。私は、教会に行かな

近頃、教会よりも家庭や学校の都合を優先したり、趣味などに時間を費やしたりして、人々が日曜礼拝に来なくなつたと不満を訴える声をよく聞きます。私は、教会に行かな

近頃、教会よりも家庭や学校の都合を優先したり、趣味などに時間を費やしたりして、人々が日曜礼拝に来なくなつたと不満を訴える声をよく聞きます。私は、教会に行かな

近頃、教会よりも家庭や学校の都合を優先したり、趣味などに時間を費やしたりして、人々が日曜礼拝に来なくなつたと不満を訴える声をよく聞きます。私は、教会に行かな

近頃、教会よりも家庭や学校の都合を優先したり、趣味などに時間を費やしたりして、人々が日曜礼拝に来なくなつたと不満を訴える声をよく聞きます。私は、教会に行かな

「私が未知なる他者である時にあなたは歓迎してくれた」
(注マタイ25:35より)とイエス様はおっしゃっています。私が所属するM+Sは、このくだりを拠り所にしながらかつたように努めてきました。どこかで何かを必要としてい

「私が未知なる他者である時にあなたは歓迎してくれた」
(注マタイ25:35より)とイエス様はおっしゃっています。私が所属するM+Sは、このくだりを拠り所にしながらかつたように努めてきました。どこかで何かを必要としてい

「私が未知なる他者である時にあなたは歓迎してくれた」
(注マタイ25:35より)とイエス様はおっしゃっています。私が所属するM+Sは、このくだりを拠り所にしながらかつたように努めてきました。どこかで何かを必要としてい

「私が未知なる他者である時にあなたは歓迎してくれた」
(注マタイ25:35より)とイエス様はおっしゃっています。私が所属するM+Sは、このくだりを拠り所にしながらかつたように努めてきました。どこかで何かを必要としてい

る人々に対して何らかの行動を起こしていけば、クリスチャンとしての自覚の在処を活かせるのではないのでしょうか。他者を受けられるのに、難しい理屈はいりません。一緒にコーヒーを飲みながら話に興じる。ちょっとした言葉がけや、求められればともに祈りながら、時間と空間を共有する。そうしたわずかな思いやりや心遣いが、誰かにとつては大きな助けや安心に繋がったりするのです。

信仰は生きる寄る辺としてクリスチャンの日常に欠かせないものです。「日々福音を伝えよ。ただし必要な時にのみ言葉を用いよ」とは、アッシジのフランシスコの決まり文句としてよく使われています。「言葉を使わずに宣べよ」など、一見矛盾しているようですが、ようするに、毎週日曜に教会へ行き、賛美歌を歌い、祭壇に祈りを捧げ、聖餐を受ける行為だけが、福音を伝えることではありません。礼拝に行かなくても、クリスチャンとして出来る行動の可能性は無限に広がっています。

教会の外で神の慈愛の心を、訪船活動という形で実践し続けて来たのがM+Sです。人々を教会へといざなうだけでなく、必要とされる場所に出向き、歓迎し、交流し、互いを気遣いながら祈りを捧げる。こうした多様な観点からの活動がもっと推奨され、身近になって欲しいと願っています。出かけましょう。あなたを必要としている誰かのために。昨日の未知なる他者を明日の友として迎えに行きましょう。そうすれば知らないうちに天使たちをもてなしているかもしれないのです。(注ヘブライ13:2より)

(神戸マリナーズセンター)

注…ここでの聖書箇所は、ポール司祭が聖書箇所を英文で要約したものを日本語訳したものです。

沖縄週間・2018

私は、6月22日～6月25日までの4日間、沖縄で沖縄戦終戦の記念週間ということ、沖縄であった残酷な戦争を忘れない、そして今にまで続いている沖縄の基地問題について学ぶ時間を頂きました。

私自身中学生、高校生の頃に学校の授業の一環として平和学習を行なったことがありますが、自分自身平和学習についてはある程度の知識があるつもりで参加しましたが、今回の学習で自分が何も知らないうちに気づきました。自分が知っているのは、教科書に載っている歴史だけで、実際に沖縄の人々が当時どのような状況だったのか、今何が起きていて、どのような被害を受けていて、どのような思いをされているのか、それらを知ることができたと思いません。

象に残る島でした。そして伊江島のプログラムの中で特に印象に残ったのが沖縄のガンジーと呼ばれる阿波根昌鴻さんについてのお話です。阿波

根さんは日本が戦争に負けたことよって伊江島が基地建設のために島を開拓する米軍に対して非暴力を掲げながら反対運動を起こした方です。阿波根さんは、周りの政治的権力に屈することなく声を上げ、自ら積極的に反対運動をしたという話を聞きました。

今までの平和学習でも戦争の話は聞いたことがありましたが、戦後の事実、そしてそれに対して反対運動を行った話を初めて聞きました。言葉で話すのは簡単ですが当時その活動をするのがどれだけ大変なのか想像もつきませんでした。

私は、今回の旅に参加して、もっと知るべきだと感じました。基地問題といえれば若い人でも誰でもそれなりにには知っていると思います。ですが、それをどれだけ自分達の問題だと捉えられているでしょうか。私は、これから大人になってゆく上で自分の国の問題について知り、考えるべきだと思いました。今回このような学ぶ機会を与えて頂いて感謝申し上げます。

(神戸聖ヨハネ教会信徒・藤井漱之介)



んのお話を聞いたり、戦争時に集団自決したガマを訪れたりしている、だんだん沖縄で本当にそんな悲惨な事件があったということが伝聞ではなく体で感じる事ができるようになれたと思いました。

また現在沖縄では、基地の問題が最重要課題です。基地が普通の街中にぽんと置かれたようにあり、それが当たり前のように生活していらつしやるのが印象的でした。基地の近くの店は、英語表記の看板が多かったり、通貨交換の店があったり、その他にも基地の近くならではの特徴があるって基地と共に生活している現状を目の当たりにしました。

沖縄の人々は、私たちが本土に住んでいては得ることのできない基地の情報などを全て新聞よって得ているそうです。実際に沖縄の新聞を見る機会を与えていただいたのですが、一面は基地の問題で埋めつくされていきました。私は、政治の問題や災害などの「今」は、テレビやネットで簡単に知ることが出来ますが、沖縄の「今」は伝えられておらず、報道は基地の移設問題が騒がれた時だけで、ある程度

期間が過ぎれば報道されなくなりません。そして次第に人々の記憶から消し去られていくことを懸念しています。私の周りの友達は、きっと今の沖縄の現状についてあまり知らないと思うし、実際に私も沖縄に来て知ることの方が多かったです。知っている人が少ないことはあまりに悲しいことなので、私はこれらの大学生生活や家族との時間において積極的に沖縄のことについて話して周りの人々に知ってもらえるように、沖縄の現状を少し理解した者として拡声器になっていこうと思っていました。

(姫路顕栄教会信徒・森井優里)



オーガスタンの まなざし



主教 小林 尚明

教役者修養会

今年の修養会は、6月19(火)～21日(木)まで徳島の眉山にある「かんぼの宿徳島」で開催されました。今回は、4月に芳我秀一司祭が徳島インマヌエル教会に着任されるまで一人頑張ってきた徳島聖テモテ教会の河村博之司祭に感謝しています。また退職司祭の秋山義孝先生が出席してくださいましたこと大きな励ましになりました。

主教アワー

例年の修養会には、主教アワーというプログラムはないのですが、今年は主教になって初めての修養会です。今年が、と初めての修養会から、という河村司祭のご配慮で、1日目に時間を取っていただきました。主教巡回での考え方や、申し込み方法の変更など、また礼拝奉仕に対するお礼を退職司祭1万円くらい、現職司祭者の場合は、原則無報酬を確認しました。

また、各教役者にアンケートを書いてきてもらいました。現在、頑張っていることや祈りの課題、主教及び教区への要望です。各教役者が発表しました。子ども達の陪餐に向けた研修、サバー・オルターギルド研修、教役者たちが共に学び、祈り、問題の分かち合いができる機会を持つことなどなど。そして複数の教役者が、祈ってもらいたい、と言われたことを大切にしたいと思います。

みんなをしあわせに

主教になって良かったことは、修養会で個室が与えられることです。2日目の午前中のプログラムが終わって、来年3月で定年退職される角瀬克己司祭と2人で昼食を食べ、午後からの自由時間に、部屋でくつろいでいた時、ふと「みんなをしあわせに」という声を聞きました。教役者みんなをしあわせにして初めて、神戸教区の復活はある、という神様のめいと受け取りました。最終日、「困ったことがあったら、私に言ってください。みなさんをしあわせにするように神様から言われました」と宣言しました。さて、どこまでできますか。頑張らなくてはいいけません。

(神戸教区主教)

神戸教区神学塾運営委員会主催 第1回信徒セミナー

み言葉のときあかしに向けて ①

7月16日(月・祝)、岡山オーガスタン教会で第1回信徒セミナーが開かれました。それぞれの教会で信徒が「み言葉」を語る時、「どのよう準備をしたらよいか知りたい」「奨励作成の具体的な実践的な内容が聴きたい」という要望に応えるべく、今年度のセミナーは、企画されました。

ウィリアムス神学館(京都市)で説教を担当しておられる黒田裕司祭を講師にお招きし、2回に渡るセミナーを開催することになりました。

準備に関する方法論など基礎的なことを学び、2回目のセミナーにおいては実践への過程を学ぶという構成になっています。

当日は、酷暑の中でしたが昼食を挟んで10時から16時過ぎまで、30名ほどの受講者が熱心に学びの時を過ごしました。質の高い内容で、受講者の反応も良く、質疑応答も盛んにおこなわれました(多少、難しかったという声もありました)。単なる方法論だけでなく、祈り、聖霊の働きを切に求めるといふ霊的な部分に関するお話もありました。語る側の準備や方法を学ぶことを通して、これからの教会での信徒の奉仕としての奨励や勧話を充実したものにしたいという決意を参加

者の方々が新たにしてくださったことと思います。また信徒がみ言葉を語っていくことにより、聖職の方々の説教への関心、説教の聴き方にも変化が生じるのではないかと思っています。



(神学塾運営委員会・浜井美喜)

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

7月1日(日) カ多田 信二
徳島インマヌエル教会

7月1日(日) カ多田 信二
7月15日(日) 徳島インマヌエル教会
エ マ 有 光 梓 深
高知聖パウロ教会

祝 堅 信

7月15日(日) パウロ 山本 新
ペテロ 前田 建彦
セシリア 政光 里香
高知聖パウロ教会

7月22日(日) パウロ 武藤 正樹
エリザベス 武藤 真知子
明石聖マリア・マグダレン教会

初 陪 餐

西日本豪雨 被災者支援室より

7月17日(火)に倉敷聖クリストファー教会(倉敷伝道所)において、第1回西日本豪雨被災者支援室会議が開かれ、以下のことが決められました。



被災は教区内では広島県、岡山県、愛媛県、その他の地域にも広がっていますが、当教区の人材や資源を考え、支援活動は広島市と倉敷市に絞り、広島では聖モニカ礼拝堂、倉敷市では倉敷聖クリストファー教会にボランティアセンターを設け、ボランティアの為に宿泊と食事を提供し、活動は主に社会福祉協議会を通して行うこと。その設置

の牧師や教役者、また応援に駆けつけた人々などにより、泥かきや瓦礫処理、飲料水や物資の運搬などの支援活動が行われました。

7月31日(火)午前11時から倉敷、午後5時から広島の開所式(聖餐式)が、それぞれのセンター責任者による司式・補式、小林教区主教の説教で行われました。

翌日からは早速、教区内外から来られたボランティアの方々により支援活動が始まりました。

この働きが被災者の方々への

10月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2018年10月4日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 河村 博之

*10月の記念逝去教役者

1日	宣教師	キャサリン	シエ	パ	ド
1日	日伝道	ヨハンナ	三浦	ス	枝
5日	司祭	ミカエル	南津	ミ	重
7日	司祭	ノア	津牛	カ	男
7日	司祭	ヨハネ	子坂	ミ	郎
8日	司祭	ヨハン	坂國	カ	ウ
9日	司執	オエル	下弘	ミ	匠
9日	司執	ミカエル	ヤク	カ	文
10日	司執	ミカエル	代野	カ	ソ
14日	司祭	パウロ	永河	カ	斌
14日	司祭	アント	嶋合	カ	二
14日	司執	ハロルド	嶋田	カ	良
15日	司執	ハロルド	マシ	カ	ク
16日	司執	サミュ	松井	カ	レ
21日	司執	オー	三浦	カ	光
21日	司執	ガスチ	岡上	カ	典
24日	司執	ペテロ	横田	カ	久
28日	司執	レオ	藤	カ	一
29日	司執	エ	加	カ	喜
31日	司執	バル	長	カ	秀
31日	司執	バル	門	カ	三

こうした方針に従って開設準備が進められました。

九州教区からは軽トラックや道具・資材類の提供を受け、他の教区からも支援の申し出や献金をお届け頂き、心から感謝しています。

センター開設までの間も、両地域とも現地



収穫感謝献金のお願い

奉献先：広瀬基督教会
募金額：300万円

同教会は、教会建築費用4,200万円の内補助として申請しています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

11月18日(日)までに教会でお届けくださり、教会ごとにまとめて、23日(金)の教区会でお届けください。



の励まし、助けになり、またボランティアの方々や怪我や病氣、事故などあらゆる危険から守られつつ、行われますよう、どうぞともにお祈りください。

(被災者支援室長
司祭ミカエル小南 晃)